

講師の紹介

基調講演 1・パネルディスカッション

■中嶋邦夫（なかしま くにお）

ニッセイ基礎研究所 保険研究部 主任研究員・年金総合リサーチセンター兼任



1995年東京大学経済学部卒業、日本生命入社。2002年よりニッセイ基礎研究所。博士(経済学・東洋大学)。専門は、年金制度および家計の意思決定。年金制度では公的年金財政を中心に研究しており、分かりやすく解説するとともに、改革案の提言・試算を行っている。家計の意思決定では、行動経済学の知見を取り入れたアンケート調査を実施し、実証分析を行っている。主な論文は、「マクロ経済スライド下における積立金運用でのリスク」『経済分析』(内閣府・2006年・共著)、「終身年金バイアスと公的年金満足度・金融資産保有への態度」『日本経済研究』(日本経済研究センター・2016年・共著)など。

基調講演 2・パネルディスカッション

■佐藤主光（さとう もとひろ）

一橋大学大学院 経済学研究科/国際・公共政策大学院 教授、HIAS Health センター長



1992年一橋大学経済学部卒業、1998年クイーンズ大学(カナダ)でPh. D. (Economics)を取得。1999年一橋大学大学院経済学研究科専任講師を経て、2009年から現職。国際・公共政策大学院(専門職大学院)教授を兼務。専門は財政学・地方財政。医療経済関係では医療保険制度の理論と制度を研究。学術に基づく政策提言に努めてきた。2019年日本経済学会石川賞を受賞。著書に「地方交付税の経済学」(有斐閣、2004年共著、日経・経済図書文化賞受賞)、「地方税改革の経済学」(日本経済新聞社、2011年毎日エコノミスト賞受賞)がある。

基調講演 3・パネルディスカッション

■三原 岳（みはら たかし）

ニッセイ基礎研究所 保険研究部 主任研究員・ヘルスケアリサーチセンター・ジェロントロジー推進室兼任



1995年早稲田大学政治経済学部卒業、時事通信社記者、東京財団研究員を経て2017年よりニッセイ基礎研究所。専門は、医療・介護・福祉制度。行政や現場の専門職、市民団体などと幅広く接点を持ちつつ、制度の持続可能性とサービスの質の両立を意識した改革案の提言を行っている。制度史を踏まえた政策過程も関心事。主な著書や論文は「日本の医療保険における保険料賦課の現状と課題」(2017年『社会政策』)、「介護報酬複雑化の過程と問題点」(2015年『社会政策』・共著)など。2017年12月～2019年1月には『ダイヤモンド・オンライン』で、映画を通じて社会保障制度の歴史や論点を解説する連載を執筆した。

総合司会

■小塩隆士（おしお たかし）

一橋大学経済研究所教授・世代間問題研究機構長



東京大学教養学部卒業後、経済企画庁(現内閣府)、J. P. Morgan 勤務等を経て、2009年より一橋大学経済研究所教授。大阪大学博士(国際公共政策)。専門は公共経済学。医療分野では、公衆衛生、社会疫学、産業医学のテーマに関心がある。子供の社会的経済的環境の健康への影響、職場環境とストレスとの関係、介護者のメンタルヘルスの決定要因、社会関係資本と健康との関係など、医学と経済学・社会学が「相互乗り入れ」できるテーマの論文執筆が最近の主な仕事。著書に、『くらしと健康』(岩波書店、2018年)、『「幸せ」の決まり方』(日本経済新聞出版社、2014年)、『再分配の厚生分析』(日本評論社、2010年)等。